

1 脚本
2 【登場人物】
3 田中笑多（17）、桐ヶ谷さくら（18）
4
5 ○ 学校・図書室・中（夕）
6 田中笑多（17）、本棚を一つ一つ確認し
7 ている。本棚から一冊のノートが落ちる。
8 笑多「（拾いながら）見覚えがないな」
9 ノートの表紙に「ネタ帳」という文字が
10 丸で囲われて書かれている。笑多、ノー
11 トを開き、挟まっていたメモを見つける。
12 笑多「（メモを見ながら）いつまで、本当の自
13 分を隠しているの。……なんだこれは？」
14 隠れていた桐ヶ谷さくら（18）が現れる。
15 さくら「田中笑多君」
16 笑多「うわっ！ びっくりした……何？」
17 さくら「私は桐ヶ谷、さくら。私は、あなた
18 の本質を知っている」
19 笑多「俺の……本質？ 何ですか、いきなり」
20 さくら、余裕の笑みを浮かべるが突然慌
21 てだし、自分の制服を探り始める。
22 笑多「……もしかして、これですか……？」
23 さくら、笑多が持つメモを確認し、頷く。
24 笑多M「ただのカンペだったのかよ……！」
25 笑多「（ため息をついて）本当の俺って……？」
26 さくら「え、えっと、ノートに……ある」
27 笑多、ノートを開く。ノートには笑多の
28 個人情報や特徴がびっしり書かれている。
29 笑多「え……っと、ストーリーの方……」
30 さくら「ストーリーなんかじゃ……ない」
31 笑多、さくらにいくつか質問をするが、
32 動転していてまともな返答がない。
33 笑多M「なんなんだ。（ページをめくる）名前
34 の漢字、癖。俺、絵を描いている時こんな
35 楽しそうなのか？ この人の名前は学校新
36 聞で見たことがある。文芸部の桐ヶ谷さく
37 らさん。まさか、俺と小説を……？」
38 笑多「（向き直って）桐ヶ谷さん、もしかして、
39 俺に何か頼みがあるんじゃないですか？」
40 さくら「（ゆっくりと頷いて）君に才能を感じ

5 4 3 2 1

笑多「ただ」
笑多「じゃあ、やっぱり……」
さくら「私と……お笑いをやらないか？」
笑多「(訳が分からず)……はい？」